

東大理Ⅲに4人の子どもを合格させた

大分出身・佐藤亮子ママの講演会から教わったこと①

『子どもを、叩いてはダメ!』

昔は先生が生徒を叩いて教育することは、極々当たり前。親が子どもを叩くのも躰として当たり前。親は叩いてきちんと教育してくれた先生に感謝し、先生に迷惑かけた子どもは家でも叱られる。私も子どもの頃、親の言うことを余りに効かず無鉄砲なことをしている時は、親から叩かれたり、時代を感じますが着物の紐で柱に括り付けられたこともあります。今となっては親や先生が厳しく躰をしてくれたおかげで、職場やご近所さんに迷惑かけるようなことはしていないと思いますし、食事の席でも同席者を不快な思いにさせていることは無いと思います。心の底から感謝しています。

一方、私も子どもから大人になり、社会人として父親として毎日奮闘している訳ですが、子どもの躰には厳しくしたいと思っています。過去の偉人の伝記等を読むと、成功の陰には多くの場合、厳しい両親の存在がある。そう信じて自分の幼少期と同様に、時には子どもを叩くこともありました。普段、仕事で訪問するご家庭の親から、よく「山田さんはいつもニコニコしていて穏やかだから、子どもを叱ったりすることなんてないでしょう？」だったり、時には「山

田さんって、家で怒ることなんてないでしょう？」なんて言われます。とんでもないです。私も子どもを叱ったり、後悔していますが、叩いたりしてしまったこともあります。もちろん、家で怒ることもありますし、本当に良くないことですが、理不尽に怒りを妻や子どもにぶつけてしまうこともあります。

ごめんなさい……。『にんげんだもの……』では、済まされないと肝に銘じています。やはり、子どもを叩いてはダメなんです。

そんなとっても大切なことに気づかされたのは、佐藤ママの講演でした。佐藤ママも可愛いわが子を叩いてしまった経験があるそうです。初めは冷静に、これは臍で叩いていると思っていても、叩くという行為により、人の怒りはドンドン増長して行き、何度も何度も見境なく叩いてしまうそうです。事実、そうってしまった経験を赤裸々にお話されていました。自分に置き換えても、そんな瞬間は何度となくあったように思い返しながら聞いていました。一つ、佐藤ママのとってもユーモアのある体験談。次男に勉強を教えていた時、何度も同じ間違いをすることにどうしたものかと思い、取った行動。初めは口で何度も注意するも直らず、次は叩く（あくまでも軽く）でもダメ、そしてシャーペンの先で「チクツとするよ～」と言って脅したり実際に軽く刺してもダメ、どうしたものかと本当に悩みに悩み、全く別の方法を考え試しにやってみたら、上手く行ったそうです。その方法は、「もう間違えたらダメだよ」とそっと次男

の鉛筆を持つ手を両手で優しく握りしめたそうです。そうすると、次男「キモチワルッ！！」と言い、もう間違えなくなったそうです。知恵を絞れば道は開ける。とても面白くこれ以上に無いほど参考になりました。

そして、次のようなことも言っていました。「100cmくらいの子どもを170cmくらいの方が叩くと言うことは、170cmの私とその1.7倍の289cmの大男に叩かれているようなものなんですよ。想像もつかないくらいの恐怖がありませんか？」それほどの恐怖を、私も子どもに与えていたかと思うと、正直ゾッとしましたし、いくら愛情があるからと言っても、体格差にモノを言わせ自分は何て卑怯なことをしていたんだろうと、自己嫌悪に陥りました。また、私の尊敬する人の1人、元プロ野球選手の桑田真澄さんも言われていたように、手を出して言うことを聞かせるような素人の指導者ではいけない。忍耐強さを教えたければ、指導者こそ忍耐を持って叩くではなくきちんと何度でも創意工夫をして指導すべき。子どもに対しても我慢強く、諦めずに取り組む姿勢・気持ちを養ってもらいたいと思えば、短絡的な対応（叩くこと）でその場を解決したような気にならず、本質的な課題に粘り強く向き合うこと。厳しく躾をすることと、叩くこととを混同しないこと。

私も、もう子どもを叩かないと誓い、その誓いを心の中だけに留めておかず、形に残すため、ここに書きました。子育てで悩むことは本当に多いけど、良き

先輩から学び、知恵を絞り、感情だけに流されず日々、頑張っていくと思う
毎日です。

S L : 1 9 - 3 2 2 0 - 0 0 1 9

ソニー生命保険(株) 大分支社

〒 870-0029 大分市高砂町 2-50

オアシスひろば 21 9 階

TEL 097-532-9200

ライフプランナー 山田新悟